2021年（令和3年）
8月号（No. 915）
公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部　150円
会員の会報購読料は年会費に含まれています
URL●http://www.jac.or.jp
e-mail●jac-room@jac.or.jp

アルプスと海をつなぐ 栂海新道
～開通50周年の軌跡をたどり未来へ～

越後支部　霰本修一

白馬岳から朝日岳を経て北へ、北アルプスの終焉・親不知に至る一本の道がある。ひとりの山男の夢が実現した縦走路、栂海新道だ。1971年の開通から数えて、今年でちょうど50周年。半世紀の間、手弁当で開拓・維持管理してきたが、今後の展望も含めて、次の担い手である栂海岳友会・霰本会員によるレポート。

北アルプス朝日岳の北端に、日本海につながる一本の登山道がある。吹上のコル（高位起点）から天険・親不知（糸魚川市）の海抜0mまでの約27kmに及ぶ大縦走路・栂海新道である。本年6月4日に全線開通50周年を迎えた。

ここでは、栂海新道の誕生物語や開通半世紀を祝う山開きの報告、今後に展開される記念イベントなど10の案内を記し、歴史を紡ぐ一助としたい。

栂海新道の誕生と小野健さん

誕生物語の主人公は小野健（1932～2014、越後支部名誉会員）さん。福島県生まれの小野さんが、大学卒業後に電気化学工業㈱青海工場の原石部に入社した。春、職場となった青海黒姫山から見た飛騨山脈北端の白銀の山並みが日本海に落ち込む景観に感動。「アルプスと海をつなぐ道を拓いたら、おもしろいコースになる。いつか実現したい」と、夢の実現に向けた構想を練り、同じ職場仲間を誘い、1961年に「さわがに山岳会」（当時7名）を設立した。

栂海新道開通記念の縦走山行（1971年8月）

いきなり登山道の伐開作業は無理と考えた小野さんは、ホームグラウンドの黒姫山で準備期間を設けた。黒姫小屋の建設や新道の開設を手掛け、徐々に自信を付けていった。

メンバーの入れ替わりのあるなか、66年からヤブ刈り1期工事を始動。目標は旧青海町（現・糸魚川市）の最高峰・犬ヶ岳までの伐開。仕事以外の休日は皆、ヤブ刈り作業に専念。鋸・鉈・鎌を使い、人力フル稼働の汗に耐えて、67年に開通。そのときの会員は、誰も小野さんの栂海新道構想を知らなかった。

次は犬ヶ岳から朝日岳間の伐開を会員に説得し、翌68年から第2期工事を開始。しかし突然、富山営林署からの出頭命令を受けるこ

目　次

アルプスと海をつなぐ 栂海新道
～開通50周年の軌跡をたどり未来へ～ … 1
令和3・4年度新役員紹介 …… 4
地域発「山の日」レポート⑪東京多摩支部 … 7
『南島探検』を著して思うこと …. 8
連載　島の山旅への誘い8 …… 10
東西南北 …… 13
新入会員 …… 13
支部だより　千葉支部 …… 14
図書紹介 …… 15
図書受入報告 …… 16
会務報告 …… 17
ルーム日誌 …… 18
会員異動 …… 18
INFORMATION …… 18
編集後記 …… 19

▶日本山岳会事務（含図書室）取扱時間
★新型コロナウイルス感染防止対応のため、当分の間、取扱時間を短縮します。平日13時～20時

梅海新道開設のリーダー、故小野健さん

えて開通させた11年の月日。ついにアルプスの高峰と日本海の０ｍをつなぐ一本の夢の登山道が拓かれたのだ。日本の登山界では、ヒマラヤ遠征全盛期のころの出来事であった。

新道開通後、半世紀の足跡

開通後の登山道や山小屋は毎年手入れされて、維持・管理されてきた。80年代に入ると「さわがに」のほか「ベニズアイ・カタクリクラブ」「ドンガラ山の会」「共栄電工社」「梅海山遊同人」の４団体が登山道を分割し、毎年、整備作業を継続。小野さん亡き後も途切れることなく続く。

だが、携わってきた会員の高齢化が次第に顕著になり、次の担い手として昨年４月に梅海岳友会（13名）が始動。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、昨年の山開き（安全祈願神事など）は地元の関係者のみで実施し、白鳥山登山は中止とした。さらに、７月に発覚した登山道の一部崩落（犬ヶ岳～サワガニ山間約17ｍ）によって開通後初の通行止めの措置をとり、先行き不安な事態に。登山道の維持を担った私たちは、開通50周年を迎える前に、なんとか迂回路を拓いて復旧したいと糸魚川市へ要望書を提出し、伐採作業の許認可を待つ月日を過ごした。崩落個所は、小野さんも苦労した新潟・富山の県境稜線。周辺エリア一帯は国有林で、保護林である。

開通50周年の山開きと記念登山

５月末日に迂回路を拓く伐採作業の許認可を正式受理。６月４日の開通記念日前に作業したいと準備し、２日に入山。３日は天候にも恵まれて約25ｍの迂回路を拓き、縦走再開を祝してテープカット。４日の開通記念日はあいにくの雨となり、日本海目指して仲間と下山。６日に開通50周年記念山開きを地元のカタクリクラブと開催。コロナ禍のなかのイベント開催で、市外や県外からの参加を自粛していただく対応となった。早朝７時、市内を中心に80余名の参加者が天険・親不知のコミュニティ広場に集まった。その中には地域の子どもの姿もあり、祝福ムードが高まった。

1人50kgもの梅海山荘建築資材の荷揚げ（1969年）

山開きでは、小野健さん（銘板）とW・ウェストン（全身像）へ顕彰の意を込めて献花。最初に来賓と登山道開拓期からの「さわがに」の３名の大先輩。続いて、長年にわたり整備作業を担ってきた関係山岳会の代表者。さらに地元の子どもたちや一般参加者と続き、思いを込めた。梅海新道という一本の登山道が人を集め、多くの岳友の交流を図り、新たな人を結ぶ役割を果たしてきたのだ。夢や目標・開拓・開通・維持を継続してきた成果を、皆で確認し合う機会となった。私たち梅海岳友会メンバー

は、この先の栂海新道を守り、次世代に伝えていきたいという新たな決意を固めた。

記念登山では、地元公民館主催の栂海新道登山に参加した親子らとともに、新緑や残雪、早春の花々が続く、年輪が刻まれた登山道を登った。山頂からは南に延びる栂海新道の山稜や、眼前の日本海に浮かぶ佐渡島の遠望などを満喫して、記念撮影に興じ、春のイベントが終了した。

山開きを兼ねて白鳥山記念登山（2021年6月6日）

今後も続く記念イベント

【夏のイベント⑴開催報告】

◆第33回　海のウェストン祭と天険・親不知クリーン活動

7月18日に実施。親不知コミュニティ広場にW・ウェストンの全身像が立つ。明治27年にこの地を訪れ「ここが、日本アルプスの起点」と紹介したことなどの功績を顕彰し、小野さんが中心となって毎年5月末の山開きと一緒に継続してきたイベント。今年はウェストン訪問の7月19日の史実に合わせる設定で、親子ら約80人が参加した。

私は主催者を代表してウェストンの功績を紹介する講話をした。その後、参加した子どもらとともに献花を行ない、偉大な先人を偲んだ。

後半は、地域の公民館が募集した参加者と、0mの海岸と急峻な登山道を中心にゴミ拾い活動で汗した。この地をゴールとする登山者が、栂海の大縦走路を踏破して感激にひたる環境を整えた。

【夏のイベント⑵開催案内】

◆栂海新道開設50周年記念　特別展

主催：糸魚川ジオパーク協議会ほか

会場：フォッサマグナミュージアム（糸魚川市美山公園内）

期間：令和3年7月22日～9月26日

名称：アルプスと海をつなぐ栂海新道～大縦走路の軌跡～

主な内容：

①栂海新道・糸魚川の山パネル展示

・栂海新道開拓の歴史と資料展示

・小野健さん愛用の山道具などを展示

・特別展講演会および座談会（愛する糸魚川の山々の魅力ほか）

②糸魚川の山・360度VR動画

この事業開催に向け、栂海岳友会は共催する体制を組み、博物館のスタッフとのミーティングを重ねて準備を進めてきた。小野さんのご家族の協力を得ながら、テーマの設定、何をどう展示するのか、などを議論しながら具体化した。

地元山岳会を含む地域協働型の事業開催により、ネットワークが広がり、市民をはじめ子どもにも親しみやすい内容に準備を整えた。また、多くの関係機関や諸団体からの後援をいただき、開催の意義を深めることができた。

コロナ禍の下、厳しい状況ではあるが、多くの皆様にご高覧いただきたいと切望している。

【秋のイベント：開催予定】

◆栂海新道賛歌スライド報告会

会場：フォッサマグナミュージアム

期日：11月下旬を予定

主な内容：スライド上映

私たち山岳会員や一般市民が撮影した栂海新道の四季、今年のイベント開催の記録写真などを上映したい。関係者や市民、子どもらとともに、糸魚川世界ジオパークの山々を楽しみながら開通50周年を祝って、未来へつなぎたい。

栂海新道のこれから

今年は、60年にわたり夢・目標・継続を紡いできた「栂海新道ものがたり」に皆で感謝し、栂海の継承を誓い合う1年としたい。今後、持続可能な栂海新道の維持管理には、栂海岳友会の活動を応援する栂海新道サポーターズ会員の参加が不可欠である。登山道（山小屋）を守り、次世代に引き継ぐ構想を具体化するためにも、各イベントが成功するよう情熱を持って取り組んでいきたい。

【問合せ先】

＊フォッサマグナミュージアム TEL 025-553-1880

＊栂海岳友会 TEL 025-562-4309（靏本修一）

令和3・4年度新役員紹介

先ごろの総会を経て新たに着任された役員の皆さんに自己紹介をしていただきます。①会員番号　②役職　③担当委員会やPT、WGなど　④好きな山域や登山スタイルなど

橋本しをり（はしもと・しをり）

①9295
②副会長
③医療委員会、科学委員会、国際委員会
④テントの中、地面の上で眠ること。富士山を見ながらの登山と、富士山自身の登山に惹かれます。

1975年、東京女子医大山岳部部長のときに、日本山岳会学生部の竹中昇委員長から女子部の案内が届きました。その後、3日置きに葉書が届き、最後は電報でした。恐縮し、文京区・湯島のルームを訪れたのが本会との出会いです。

どんな顔ぶれかと想像していましたが女子はおらず、あなたが創ってくださいと言われ、驚きました。文部省登山研修所（当時）の大学女子リーダー講習会のときのメンバーや大学山岳部女子が集まり、おでんパーティをして情報交換を続けました。

1976ナンダ・デヴィ登山隊事務局の手伝いでは諸先輩の行動を学び、その間、ルームには魅力的な図書室があることに気付きました。そして、大学卒業後に念願のガッシャブルムⅡ峰（8035m）に、5人の女子が登頂できました。

本会の魅力は、その豊富な図書と積み重ねてきた歴史と人力です。今後は今まで蓄積してきたことを基に展開していければ、と考えています。

松原尚之（まつばら・まさゆき）

①10507
②理事
③YOUTH　CLUB委員会、改革事業推進委員会
④好きな山域はハイシエラ、広島県・三倉岳、宮崎県・大崩山地など。クライミングと、最近は避難小屋やテント泊での静かな山域の縦走に魅力を感じます。

法政大学山岳部で登山を始め、学生部のころから日本山岳会にお世話になってきました。1995年のマカルー（8481m）東稜登山で初めて8000m峰に登頂することができ、青年部の隊ではK2（8611m、96年）やダウラギリⅠ峰（8167m、97年）にも行かせてもらいました。

YOUTH CLUBに限らず会の若い人たちには、まずは日本山岳会で良い仲間、良い先輩、良い後輩と出会い、安全な登山を学び、楽しい経験、得難い経験をたくさんしていってほしいと願っています。より多くの思い出に残る山行の積み重ねが、少しずつ仲間を増やし、組織を成長させていくのだろうと思うし、そのためのお手伝いができれば、と考えています。

また、支部との交流は私がやりたいことの一つです。今後、多くの支部の方々とご一緒できる機会を持てれば、と考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

松田宏也（まつだ・ひろなり）

①11748
②理事（千葉支部長を兼務）
③支部事業委員会、国際委員会、図書委員会
④穏やかな里山から百花繚乱のアルプスまでをのんびり歩いています。冬季はスキーと八ヶ岳で遊ぶのが恒例となっています。

1982年、ミニヤ・コンカ（7556m）で両脚と両手指を失うも、社会復帰と同時に義足で登山を再開。会社業務のかたわら各地の山を登り、95年にはシシャパンマ（8012m）に遠征。昨年はグレート・ヒマラヤ・トラバースの第1回に参加、ハンディを抱えながらも40泊の山旅を無事に完遂することができました。改めて、いただいたご支援に篤く感謝申し上げる次第です。

さて、このたび理事という大役を仰せつかりましたが、初めに皆さんにお願いしたいことがあります。コロナの蔓延により息苦しく澱んだ空気を、早く新鮮な空気に入れ替えてほしいということです。コロナ停滞前線の下でくたびれた傘をさし続けるのは、もうウンザリです。新しい雨具を着て、空を見上げましょう。そのお手伝いをすることが、私の重要な使命だと思っています。「過去を変えることはできないが、未来は変えられ

る」そろそろ傘を畳むときです。

平川陽一郎（ひらかわ・よういちろう）

①12427
②理事
③「山の日」事業委員会、YOUTH　CLUB委員会
④全ての山に興味があり、縦走・クライミング・BCスキー・沢登りなど、四季折々の山を楽しんでいます。

高校・大学の山岳部で登山を始め、在学中には多くの国内外の山に登ることができました。山岳部で学んだ様々な技術や知識は、登山の基礎として、山で使える知恵として、今でもとても役立っています。卒業後は、「すばらしい山に登る登山者を増やしたい」「事故を減らしたい」との思いで登山業界に入りました。また、山岳部では監督・コーチを長く務めていました。

日本山岳会では、埼玉支部「やま塾」の主任講師として、机上と実技の講習を行なっております。

日本山岳ガイド協会にも所属しており、同協会では、会員の方に向けた安全登山関係の講師として活動しています。一般の方に向けては、finetrackの直営店を拠点として、安全登山啓蒙関係の講習会を数多く行なっております。

このたびの理事就任に当たり、日本山岳会が継承してきた思想と理念を大切にし、若手の育成と活性化を図り、山岳会の今後につながるように、微力ながら活動していきたいと考えております。

皆さま、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

久保田賢次（くぼた・けんじ）

①13011
②理事（総務担当）
③「山の日」事業委員会委員長、『山岳』編集委員会
④若いころは、記録が発表されていない渓谷から頂を目指す沢歩きに没頭してきました。最近は、山に登れなくなる年齢が近付いてきたこともあり、少しでも長く「山力」を保てるよう、闇雲に出かけています。また、行方不明の方の捜索など、岳連救助隊員としての活動にも参加させていただいております。

伝統ある大学山岳部の門を叩く勇気がなく、社会人山岳会で初歩から鍛えられた自分にとって日本山岳会は近寄りがたく、憧れるだけの存在でした。山と渓谷社入社の機会を得て、山岳会の諸先輩方に恐る恐る挨拶させていただいたり、同年代の皆さんの海外での華々しい活躍に接するにつけ、コンプレックスは益々高まるばかりでした。

定年退職後、学び直しに入った大学で、遭難防止に関する論文に取り組みましたが、全国の皆様にご協力いただいたアンケートの結果、なんと4割以上が「日ごろから独りで登山をされている」という現実に驚愕しました。こうした現実下、登山組織は何をすべきか。このたび理事にお声掛けをいただき、軽い気持ちでお引き受けしてしまいましたが、総務担当理事という大役が果たして務まるのだろうかと、不安で不安で眠れぬ日々が続いています。

登山関連組織のほぼ全てに所属させてもらい、最近は登山道についての新たな勉強会の立ち上げに邁進しております。また、日ごろは日本山岳救助機構に勤務し、多くの未組織登山者の方々と接する機会をいただいております。足場も定まらない私に、日本山岳会の将来を語る資格などありません。しかし今の、これからの登山界全体の中における山岳会の在りよう、役割のためには力を発揮できそうな気もしております。なにとぞご指導のほど、よろしくお願いいたします。

川瀬恵一（かわせ・けいいち）

①14424
②理事
③遭難対策委員会、山岳研究所運営委員会、科学委員会
④山は、冬山も岩も低山も森づくりも、オールラウンドに楽しんでいます。

中学生のころから奥多摩や長野の山々によく行きました。アマチュア無線機を持って、山頂から交信するのも楽しみでした。大学では競技スキー、社会人になりアルパイン・クライミングに没頭した時期がありました。都岳連救助隊に所属し、捜索・救助や、国内外におけるレスキュー技術の研究を行なっています。スイス在住時にはユングフラウ・マラソンを走り、トレイル・ランニングも続けています。

日本山岳会には、海外登山への憧れから入会しました。会員の皆さんは山をフィールドに様々なジャンルの活動をされており、個人個人が山に対する方向性を持ちながら、多くの仲間と集い、語り、山を楽しむという、すばらしいクラブライフを送られています。日本山岳会の伝統を大切にし、新しいチャレンジも試み、皆さんと一緒に生涯の趣味として、安全に楽しい登山を実践していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

長島泰博（ながしま・やすひろ）

①15418
②理事
③総務委員会、山行委員会、国土地理院WG
④若いころから無名の、静かなヤブ山を歩いてきましたが、最近は、各地の名山を訪ねることが多くなりました。

中学の卒業旅行で、伊豆の山を歩いたのがきっかけで山に興味を持ち、高校でワンダーフォーゲルに入部しました。以来、現在まで50年近く山を楽しんでいます。

JACというと大学山岳部のイメージが強かったのですが、最近はJACに入って登山を始める方も多いようです。JACがほかの山岳会と違うのは、全国にある支部の存在と、多種多様な山の楽しみ方を知っている方がたくさんいるということだと思います。

新しく山を始める会員がJACの魅力を大いに感じ、幅広い志向の登山を楽しんでいってもらえるよう、会の活動に取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

南久松宏光（みなみひさまつ・ひろみつ）

①16785
②常務理事
③財務委員会、公益法人運営委員会
④陣馬、高尾などの低山専門

このたび財務担当理事を拝命いたしました南久松と申します。先輩から「日本山岳会の仕事を手伝って」と言われて、軽い気持ちで「いいですよ」とお答えしたら、想像外の常務理事という役職を命じられました。

この年齢（本稿執筆時68歳）で新しい仕事に巡り合えるのは幸運と考え、積極的に職務に取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

山は好きなだけで、全くの素人です。かなり前には富士山や尾瀬・燧ヶ岳などには誘われて登りましたが、どちらかと言えば、山の小説や映画などを見て楽しむタイプで、先輩会員の皆様には誠に頼りない存在です。ただ、伝統ある日本山岳会に入れていただいたのだから、昔からの念願である北アルプスの稜線には立ってみたいものです。

佐野忠則（さの・ただのり）

①12887
②監事
③公益法人運営委員会
④若いころはスキーや登山もいろいろやっていましたが、最近は軽い山登りが中心です。

出身は名古屋です。高校時代は、山登りはほとんどやっていませんでしたが、北海道大学ではワンダーフォーゲル部に所属し、登山というより山スキーをやっていました。社会人になってからは、仕事の仲間らと北・南・中央アルプスや近隣の山に登っていました。

元会長の尾上昇さんとは私が高校の後輩で、家もほぼ隣同士という偶然が重なり、日本山岳会に入らないという選択肢はなく、東海支部でいろいろ活動していました。平成20年ごろから公益法人への移行の準備が始まり、内閣府などとコンタクトしているうちに公益法人運営委員会に携わることになりました。公益法人への移行に際しては、いろいろな意見がありましたが、定款の事業目的も従来どおりで進めることができて、かつ、税制上も大きなメリットを享受することとなりました。

今回、監事に就任することになりましたが、公益法人への移行後、その活動において特段の問題は発生していません。日本山岳会が発足以来継承してきた活動方針を続けられるよう、微力ながら努めてまいりますので、よろしくお願いします。

地域発「山の日」レポート⑪東京多摩支部

東京多摩支部と「山の日」

東京多摩支部長　野口いづみ

8月11日が国民の祝日「山の日」となってから、今年で5年目となる。「山の日」と東京多摩支部（以下、多摩支部）との関わりについて改めて振り返ってみたい。

多摩支部は2010年2月に設立された。10年4月に山岳5団体による「山の日」制定協議会が立ち上げられたので、同じ年に産声を上げたことになる。制定協議会代表の成川隆顕氏は多摩支部の設立にも関わっており、同じ時期に支部と協議会の設立に奔走していたことになる。

2013年、高尾山で開催された「山の日」の集い

JACは09年、尾上昇氏の会長就任後、「山の日」制定運動が本格的に動き出した。13年6月2日、協議会は一般社会に向けた「山の日」制定活動のアピールとして、高尾山ケーブルカー駅前広場で、「山の日」の集いを開催した。坂本正智・多摩支部会員が開会の宣言をし、多摩太鼓の音が鳴り響いた。集いには支部から30人以上が参加し、竹中彰・前支部長らは「高尾の森づくりの会」や都岳連の会員とともに、祝日制定を呼び掛けるビラを2000人の登山者に手渡した。

14年、国会で「山の日」が国民の祝日に決定され、16年に施行されることになった。これを受けて、14年6月1日に協議会は同じ広場で集会を開き、多摩支部会員の多くが再び実働部隊として活躍した。

16年8月11日に国民の祝日として「山の日」がスタートした。多摩支部では「山の日」フェスタとして、高尾599ミュージアムと共催で高尾山親子森育ハイキング、おくたま振興財団と共催でセラピー・ウォーキング、そのほか絵画展・映画鑑賞、写真・山道具展示など多彩な活動を展開した。山の日の制定以降も、毎年、「山の日」に奥多摩駅前で安全登山啓発のためのビラ配りを行ない、高尾山親子森育ハイキングを、大蔵喜福氏が講師を担当して続けている。

山の日の理念は、「山の恵みに感謝し、自然を守り、次世代に引き継ぐこと。登山者の安全と健康に寄与し、登山の楽しみを広く伝えること」とされる。ひと言で言うと「登山のすばらしさを伝える」運動であり、安全登山や自然保護活動の啓発など活動は多岐にわたる。多摩支部は登山教室、安全登山や自然保護などの講演会・講習会、自然観察会などによって、「山の日」制定以前から、いわば「東京の山の日」を実践してきたと言える。

多摩支部は設立10周年を迎え、会員数が300人と、JACの中で東海支部に次いで大きな支部に成長した。しかし、昨年からのコロナ禍でイベントや登山、登山教室の中止を余儀なくされ、活動を思うに任せない日々が続いている。そのような逆境の中で、魅力的な支部をつくるために何をしたらよいのか、模索している。JAC本部でも取り組みを始めた、講演や講座などの情報のオンライン配信もその一助になると考えて、活動を始めたところである。今後も、「山の日」の活動の一翼を担いながら支部活動を展開したいと考えている。

多摩支部主催の初級者登山教室で大菩薩連嶺を歩く

ESSAY

『南島探検』を著して思うこと

安間繁樹

還暦後、山歩きを再開するまで

１９６５年、「西表（いりおもて）島でヤマネコ発見」という、私にとって衝撃的なニュースが流れた。「どんな島なんだろう」。すぐに準備を整えて、私は西表島へ向かった。ちょうど20歳の夏であった。

当時の西表島は戦後の入植から20年、まだ移民が続いていた。なんでも見たいという衝動に駆られ、私は道もない海岸線を伝って島を一周してしまった。全島を覆う密林。大自然が人間生活を圧倒していた。その驚きは、私の人生に何か決定的なものを与えてくれたように思う。以来、島通いが続き、３年間を現地で生活したこともある。イリオモテヤマネコと島の自然が私の研究対象だった。調査のために島の奥深くまで歩き回った。

ホーラ川の連瀑帯

西表島での研究が一段落した後、私はＪＩＣＡ専門家として足掛け25年間、正味16年間をボルネオ島で暮らした。動物の研究と若手研究者の育成が仕事だった。この間、西表島へはほとんど行く機会がなかった。しかし、21世紀に入って日本にいる期間が増えたことを機に、西表島通いを再開した。60歳を過ぎて歩いてみると、西表島の山や沢は、地形も気候的なものも、さらに体力的にも自分にぴったりだと感じた。そして、「せっかくなら、西表島の全ての沢を歩いてみたい」と思うようになった。

西表島の魅力

西表島の山の魅力は、ほとんど人が入っていないことだろう。１週間歩いても人に遇（あ）うことがない。それに、森林そのものが他府県と違う。全く空が見えない閉鎖した樹冠、太い幹に絡まるツル植物、巨大な板根、多種多様なシダ類、マングローブ。さらにヘビやトカゲ、カエル、昆虫類など、全てが南方系の生き物たちだ。

西表島の山は、難易度からすれば決して恐れる場所ではない。最高峰の古見岳でさえ標高４７０ｍ。東京都心から近い高尾山にも及ばない。１０００を超す滝があるが、いずれも脇を迂回できる。他府県の山と違って、どんな崖でもたい ている木が密生しているからである。それに終日水の中を歩いても、真冬に野宿をして寒い思いをしたとしても、凍傷や凍死することは絶対にない。「海を渡って行く」ということで、ちょっとした遠征気分になれるし、自然の水が豊富で、しかも、どこの沢でも安心して生水を飲むことができる。

古見岳山頂部に広がるリュウキュウチクの群落。山は金山

南島ならではの難問が

では、何が大変なのか。東京近辺に住む人にはお分かりいただけると思うが、房総半島の山には特別に高いピークはない。しかしながら、いくつもの小さな尾根と沢が入り組んで地形を複雑にしている。西表島の山は、これとよく似ている。それは両者が、１５００万年前の海底の堆積物が隆起した

という、共通の地史を持っているからである。それでいて、西表島には山道がない。西表島は面積２８１平方㎞、南房総市は２３０平方㎞。西表島にある「集落と耕作地の面積」を差し引くと、南房総市と同じくらいになる。つまり、南房総市の全域が深い森に覆われ、あらゆる道がない状態、それが西表島である。

稜線部には、２万５０００分の１の地形図でも表わせない無数の起伏があり、他府県の山にはないツルアダンなどのやっかいなツル植物が尾根をふさいでいる。ススキやササの群落をかき分けて行く「ヤブこぎの常識」は通用しない。

由珍川西本流の大滝の滝口から俯瞰した下流の照葉樹林

森の中では眺望が利かないし、冬季を除けば、高温多湿で蒸し風呂に入っているようだ。むしろ、そういうことからくる精神的圧迫と疲労、暑さへの適応が、西表島を難しい山にしているのではないだろうか。

西表島を目指す方々へ

ぜひ、西表島を訪ねて欲しい。ただ、気軽にトレッキングできるのは、観光地になっているマリユドゥの滝とカンピレーの滝のみ。ほかは古見岳、テドウ山、横断山道にのみ踏み分け道がある。それ以外は、ワンダーフォーゲル部や探検部による「探検」の世界だと心得てほしい。気楽に立ち入れるという場所ではない。

島の南西部、崎山半島南西岸の岩石海岸

「ぜひ、山に入りたい」と思われることがあるかも知れない。そのときは、十分な経験と技術を持った人の指導と同行を心がけてほしい。内陸部に関しては元々情報が少ないし、昔の山道は痕跡すらない。巨岩や急峻な崖も多いし、沢は特に滑りやすくて危険だ。

伐採や山道があった稜線部は、ツルアダンや棘植物で覆い尽くされている。ここは、どんなに頑張ってみても、個人ではなかなか突破できない。今の私は沢歩きを中心とし、可能な限り稜線を避けている。沢には滝や崖など、稜線にはない危険が連続している。それでも、単独行では沢歩きの方が「まし」のように思う。

「総集編」に向けて

私は今76歳。『西表島探検』、『南島探検』に続き、「総集編」を上梓したい。５年くらい先になるだろう。それまでに、歩き残した沢を可能な限り歩くつもりだ。ただ、単なる「トレッキング・ガイド」で終わらせるつもりはない。

西表島で見付かっている最も古い遺跡は４０００年前のものだが、２万７０００年前には、すでにヒトが住んでいた可能性がある。さらに、琉球国時代から３００年以上の間、新村の建設と廃村が繰り返されてきた。集落間を結ぶ道も、開かれては消える歴史の繰り返しだったのだろう。このことも、資料を当たって書いてみたい。さらに、私が見た西表島の自然や人々の生活、人との出会いを、私の60年間の個人史としてもまとめてみたい。

２０２１年７月、西表島は奄美大島、沖縄島とともに世界自然遺産に登録された。すでにほぼ全域が国立公園であり、森林は時を経て「太古の森」に戻っていくのだろう。しかし、規制、規制で封鎖してしまうのではなく、多くの人が自然を享受できるような観察路や施設の整備と維持、入山に関するルール作りなど、旅人もそこに住む人たちも、心から喜べるような政策を進めてほしい。

いつの世にも夢を持つ若者が生まれてくる。探検を志す彼らにとって、西表島が魅力ある秘境として存在し続けることを願っている。

（千葉支部会員）

連載■島の山旅への誘い[8]

淡路島
――先山、沼島・石仏山、諭鶴羽山など

関西支部　加藤芳樹

山頂にある千光寺への参道が先山の登山道

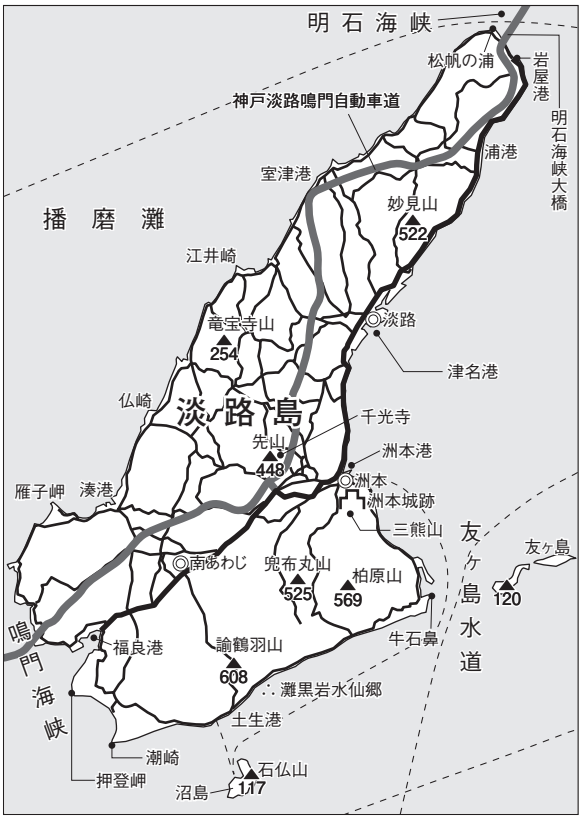
国生み神話の舞台

島の多い瀬戸内海において最大の面積を誇るのが淡路島。とはいえ、全体としてはゆったりとして切り立った場所もほとんどなく、山岳としては、最高峰の諭鶴羽山（608m）をもってしても、ようやく標高600mを超える程度だ。

淡路島へは、マイカーが一般的な交通手段となる。知られた自然景観は少なく、観光としては花をテーマにした施設がいくつかあるとはいえ、休日にドライブに行ったり、キャンプや釣りを楽しむというのが、島のレジャーの中心だ。しかし、見方を変えれば、さらに深く知ることによって淡路島は魅力のある島に変身する。

淡路島を語るフレーズに「おのころ島」という言葉がある。『古事記』において、まだ陸地が存在していない海に、イザナミ・イザナギの二柱の神が、天の沼矛で海をかき回して引き上げたところ、矛の先から滴り落ちた滴が島となった。これが「おのころ島」であり、淡路島とその周辺の島々であるとされている。淡路島をこの国生み神話の舞台と考えれば、俄然、淡路島は魅力のある島になる。近年は国生み神話関連の場所が日本遺産として登録され、注目されている。

この神話と登山とを絡めつつ、紹介していこう。



最初にできた山「先山」

淡路島の第一の街、洲本の近くに、「淡路富士」の異名を持つ先山（448m）がある。イザナギ・イザナミが最初に造った山だから「先山」と名付けられたという。山頂には、千光寺という古寺がある。寺なので狛犬がないのは当然だが、まるで狛犬のように向かい合った猪、つまり狛猪がいる。千光寺を開基した播磨の猟師・忠太が観音の化身である大猪に導かれ、この山にやって来た。矢を射ると矢が刺さった観音像が横たわっていた。

よく見られる猟師と動物が登場する神社仏閣の開基譚だが、造形物となっているところがおもしろい。島内交通が決して便利とは言えない淡路島にあって、高速バスのバス停から登れるのもうれしい。

洲本ICバス停から東に向かう。登山口の下内膳までまっすぐ行ってもいいが、最初の信号で左に折れ、ひと筋山の手の旧道を歩くと、突き当たった所に「先山千光寺」の道標がある。ここから山の手に向かう道が最もポピュラーな登山道。

高速道を越えると、駐車スペースがある。しばらくはコンクリー

ト道で、車止めゲートを越え七丁石まで来ると急階段の九十九折が続く。階段が終わり、快適な登山道を行く。十四丁石からは石段の急登だ。登り切って平坦になると左手に岩戸神社の鳥居が立つ。巨岩の下にある神社に行くのは後に回し、まず千光寺へ。

長い石段を登り、不動堂前を左に行くと展望所、階段を上ると本堂がある。海商・高田屋嘉兵衛が修復したという五重塔もなかなか見事だ。境内の梵鐘は国の重要文化財である。

下山は岩戸神社の鳥居の横（左）から一見、登山道には見えない道に入る。落ち葉と落枝が積もり荒れているが、古い参詣道なので道型ははっきりしている。登山口のゲートからバス停まで道なりに下るが所々丁石があり、参詣道が続いているのが分かる。全行程で約3時間。

洲本市大野の菜の花畑から見た「淡路富士」先山

伝説の「天の御柱」が立つ沼島

国生み神話では、できた島に降り立ったイザナギとイザナミは御柱と屋敷を立てる。そして、その柱の周りを巡り、契りを交わす。淡路島の南東に浮かぶ沼島の南東岸に立つ上立神岩が、その御柱という説があり、この沼島こそが「おのころ島」だという。

沼島は小さな島で、集落があるのは沼島港周辺のみだ。その一方で、山中には立派なハイキング道が設けられていて、尾根伝いに一周することができる。

淡路島の土生港から沼島汽船で沼島港に渡る。土生港へはバス便もあるが、かなり乗り継ぎが面倒なので、マイカーが良いだろう。島に渡ったら、まずは西へ向かい、反時計回りに一周してみよう。

港から15分も歩けば自凝神社への階段がある。登っていくと、こぢんまりとした社殿があり、イザナギ・イザナミの国生みをモチーフにした石像がある。ここから遊歩道に入っていく。沿道にはミニ四国八十八ヶ所の石仏が点在している。道が不明瞭な箇所はなく、道標もしっかりしているが、シダが茂ってやや荒れぎみではある。島を南西部、北東部に分けている鞍部に降り立つと、道路が通じていて、いったん南へ進んで海岸線に出ると、海中から上立神岩が屹立している。

鞍部に戻り北へ。赤い鳥居が立ち並ぶ山ノ大神社を過ぎると、島の最高峰、石仏山（117m）は近い。山と名が付くが、林に囲まれて灯台が立っているだけで、およそ山頂らしき所はない。余裕があれば、そのまま島を一周してもいいし、先ほどの鞍部、または神社と灯台の間にある分岐から集落に下ってもよい。一周コースでおよそ4時間である。

最高峰の諭鶴羽山へ

島の最高峰、諭鶴羽山も、ご多分に漏れず国生みのイザナミ・イザナギの二柱が絡んだ山である。島を造ったこの神々が、2羽の鶴となってこの山で遊んでいたところ、狩人がこの鶴を射抜いた。傷ついた鶴は人の姿になり、国家安全、五穀豊穣の神となってこの山にとどまると言い、狩人に社を建てることを命じた。それが今の諭鶴羽神社の縁起となっている。

「天の御柱」のモデルとされる沼島・上立神岩

紀伊水道を一望することができる諭鶴羽山山頂

ーズンの1月から2月にかけてなら、ぜひ組み合わせて花と島の山旅を味わいたい。

お勧めは西から東への縦走だが、ややアクセスが面倒だ。行きは洲本までバスで行き、乗り換えて市バス停へ。帰りは、コミュニティ・バスの灘黒岩を利用する。コミュニティ・バスが停車する「陸の港西淡」までマイカーで行き、行きはタクシーで諭鶴羽ダムまで行くのが現実的だ。

南あわじ市サイクリング・ターミナルの先で諭鶴羽ダムを渡り、裏参道登山口へ。階段を上がりひと登りすると尾根に出る。左へ折れると古道が始まる。

古道は緩やかで快適な尾根道。神倉神社を過ぎ、丁石地蔵に見守られながら進む。道中、近畿自然歩道の道標があるので迷うことはない。淡々と歩いていくと、やがて山頂に着く。山頂は諭鶴羽神社の御旅所となっていて、展望は抜群だ。

一方で熊野権現との関わりも深く、古くから山岳修験が盛んで、多くの寺院があったという。しかし、明治政府の発した廃仏毀釈と修験道廃止令により、神社だけが残った。今でも季節には山伏が訪れ、法螺貝の音が響き渡る。

現在、参道は諭鶴羽古道として整備され、丁石地蔵に導かれて風情あるハイキングが楽しめる。南麓には、５００万本のスイセンが自生する灘黒岩水仙郷があり、シ

下山は直進方向に進み、諭鶴羽神社へ。神社前から古道の標識に従って表参道を下っていく。裏参道と違い、こちらはやや急坂だ。古道の名残の解説板などを読みながら獣避けゲートを出て、舗装路を下る。鳥居のある場所が諭鶴羽山の遥拝所で、振り返ると山頂の電波塔が見える。海岸沿いの県道に出たら、左へ向かうと水仙郷にたどり着く。

所要時間は約2時間。

山旅のメモ

島内の移動は、公共交通機関を利用すると乗り継ぎが多くて結構複雑だ。やはりマイカーで訪れるのが良いだろう。京阪神からは明石大橋、四国からは鳴門大橋経由で、島を南北に縦断する神戸淡路鳴門自動車道を利用する。公共交通機関では、大阪、神戸三宮、高速舞子から高速バスで島に渡り、洲本バスターミナルや、陸の港西淡を拠点に島内のバス便を利用して各地に赴く。

島内観光は、花を楽しむのであれば「あわじ花さじき」や「淡路ファームパーク　イングランドの丘」、歴史なら洲本城などがあるが、「おのころ島」をテーマにするなら、淡路市多賀にある伊弉諾（いざなぎ）神宮には足を延ばしておきたいところだ。

島のグルメとしては、海産物はもちろんだが、名産の玉ねぎにちなんだものが多い。

◆問合せ先一覧：洲本市商工観光課　TEL０７９９−２２−３３２１、沼島観光案内所　TEL０７９９−５７−０７７７、南あわじ市商工観光課　TEL０７９９−４３−５２２１、淡路交通　TEL０７９９−２２−３１２１（バス）、なるとタクシー　TEL０７９９−５２−０２９８

◆参考ガイドブック：分県登山ガイド『兵庫県の山』（山と溪谷社）

諭鶴羽山とセットで訪れたい灘黒岩水仙郷

N
西北
東南
S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします）

「木暮理太郎翁生誕之地」碑に想う

小原茂延

日本山岳会第3代会長である木暮理太郎は群馬県新田郡強戸村（現在の群馬県太田市寺井）に1873（明治6）年12月に生まれ、近代登山の先駆者のひとりとして広く知られている。

東京帝国大学の後輩であった田部重治と北アルプス、奥秩父に探検的登山を重ね、そのゆかりの地には記念碑が建てられ、木暮祭、田部祭など遺徳を偲んで現在も続いていることは、登山のみならずその人徳を慕われたことによるのであろう。

島田巽さんの『山稜の読書家』（1985年、茗渓堂）の一篇に「二つの木暮碑」がある。奥秩父・金峰山を望む金山平にある広く知られた木暮碑（1951年建立）に加え、新しく郷土の上州・太田市寺井（1978年建立）に地元の強戸山岳会を中心として建てられ、その除幕式は11月3日快晴の下、強戸山岳会と地元の方々、日本山岳会の西堀榮三郎会長ら東京から折井、望月、成瀬、島田、野口、鶴岡、神谷、神原、野上、山崎の諸氏が参加（会報407号）している。秩父三波石の巨石に黒御影石がはめ込まれ、西堀会長の筆になる「山登りは先人の肩に乗って先へ上へと進むものだ　木暮理太郎翁生誕之地」が刻まれている。このことを初めて知ったのは6年ほど前、緑爽会での南川金一氏の講演であった。当時調べてみたところ、この言葉はギリシャ神話にある過ちを犯して盲目となったオーリーオーンを憐れんだ鍛冶の神が、従僕であるケーダリオーン（一つ目の小人）をつけ、肩の上に乗せてその教えるままに東に導かせ、やがて太陽神

に会い眼を癒したという伝説に端を発しており、かの万有引力の発見で知られるニュートンも先人の教えという教訓で引用している由である。西堀元会長が滞米経験など豊富な知見に基づいて、登山にも通じる人生の至言を撰文したものと考えられる。

さて、島田巽さんはこの記念碑の背面の碑文には著書『山の憶ひ出』の中の「秩父の奥山」の一節が引かれている。〈碑文は原文通りではないが〉と記している。後年、横山厚夫氏も現地を訪ねて同様のことを書いている。

このことが気になって、かねがね現地を訪ねて実見に及びたいと願っていたが、コロナ禍もやや落ち着いた秋の一日、「木暮理太郎の足跡を語り継ぐ会」の浅海事務局長のご厚意もあって、蛇川河畔の「木暮理太郎翁生誕地之碑」にまみえることができた。確認できたことは碑文のスペースから前述の内容を納めるべく原文の一部を略していること、旧字などを読みやすく当用漢字に改めたことなどによるものと判明した。通常、表示する「（中略）」などを省略しているので、『山の憶ひ出』を熟読した人たちにはやや違和感を受けたものと思われる。

木暮理太郎が金峰山を評して「金峰山は実に立派な山だ、（中略）世に男の中の男を称えて裸百貫という諺があるが、金峰山も何処へ放り出しても百貫の貫録を具えた山の中の山である。」と書いているが、それは古武士然たる木暮理太郎翁とその生きざまに重なる。そこに歴代会長を最長の9年近く務めた、ゆるぎない人望と先見性を感じるのである。

支部だより

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとリポートします。

千葉支部

「房総Base」で交流の扉を開こう！

長引くコロナ禍で普通の生活のありがたさが身に染みる。息苦しい時代になったものだ。顔を合わせる機会が減り、一杯やりながらの山談義も少なくなり、会合で利用する馴染みの飲み屋の経営が心配になったり、なんだか仕方ないけど、納得できないおかしな時代だ。そんなときだから、なおさら皆が集う場のありがたさに気付いたのかもしれない。

「願えば……願えば……叶う」不思議な縁でとんとん拍子に話が進み、房総半島の鋸南（きょなん）町の里山に古民家を借りられることになり、私の長年の夢がようやく叶うことになった。建物は山小屋風とは言えないが、風通しの良い日本家屋はなんとも懐かしい昭和の空気にあふれ、随所に私の子ども時代の記憶が蘇るのだ。

房総Baseの全景

入り口には大きなマテバシイがシンボル・ツリーとしてどっしりと根を下ろしている。ここを拠点に房総の山々を登り、千葉支部はもちろん、他支部の皆さんとの交流の場として活用し、山と人の世界を広げていきたいと思う。気の置けない山仲間が集まり、同じ釜の飯を食らい、酒を飲み、里山からヒマラヤへの夢を語り合う、そんな場になればうれしい限りだ。

この古民家の名称は「房総Base」。内房の里山と里海、続く海岸、遠くに富士山、自然豊かな地に房総Baseはある。有志の会員による大掃除を終え、冷蔵庫、電子レンジ、調理器具、食器類も揃え、食材と寝袋さえ持参すれば宿泊ができる。近くには温泉もある。冬の房総は暖かく、ハイキングには最適だ。特にスイセンの時期には、ここを拠点に特異な地形と植生、

荒々しい素顔と豊かさを持つ里山の魅力を多くの方々に味わっていただきたいと思う。房総の山で有名な、富山や伊予ヶ岳はBaseのすぐ近くだ。

　コロナ禍の時代、じっとしていればよいものを……、かも知れないが、こういうときだからこそ一歩前に踏み出し、絆を強めることが大切だと私は考えている。房総Baseの心落ち着く雰囲気に包まれ、鳥のさえずりを聴きながら、あれやこれやと夢を語り合うのは楽しいもの。多くの皆さんに利用していただき、ここで生まれる夢と交流の絆が新たな倶楽部ライフの扉を開いてくれることを期待している。

アットホームな雰囲気いっぱいの台所

　なお、宿泊定員は10名程度、宿泊料は1名1500円。アクセスは安房勝山駅からバス、車では鋸南富山ICから佐久間ダム方面へ約8kmの所だ。多くの方々のご利用をお待ちしています。申込みは千葉支部 ✉cib@jac.or.jpへ。

（千葉支部長・松田宏也）

図書紹介

山並み大図鑑 信州山座同定ｎａｖｉ

写真＝佐々木信一／文＝菊地俊朗

2021年4月
信濃毎日新聞社
A5変型判　172ページ
2000円＋税

　写真家の佐々木信一氏が撮影した山並みの写真が、目一杯に広がる図鑑である。山名は、その美しい山の写真を邪魔しないように上端に控えめに付けられている。しかし、A5変型判の本を見開きに使うなど、山の写真を大きく扱っているので、示された山名がどの山であるか、分かりやすい。

　「信州山座同定ｎａｖｉ」なので、長野県から見える山に限られるが、それでもたくさんの山がある。できるだけ多くのすばらしい山の眺めを紹介したいという思いからだろうか、172ページのこの本は、文章は少なく、山並みの写真で埋め尽くされている。なんと本の帯とカバーの裏まで南アルプスや北アルプスの写真が印刷されている。「松本平―北信濃ライン」や「上田―佐久平ライン」といった国道や鉄道沿いに進むなかで13ヶ所のViewPointが挿入されるとともに、「絶景360度のパノラマ」としてオススメの展望台と言える場所が紹介されている。

　私がまだ行ったことのない場所もあるので、写真を見ると行ってみたくなる。山並みの写真を見ていると、槍ヶ岳などは、どこから見ても槍ヶ岳と分かるが、ほかの山は、眺める場所によっては随分と山の形が変わってくる。

　長野県側から見た甲斐駒ヶ岳は、山梨県で見るような摩利支天が見えないので、北岳のような三角形をしている。

　また、ほかの場所では手前の蓮華岳などで隠れて見えない劔岳が、美ヶ原からなら眺めることができることもこの本から分かる。

　山並みの写真がいっぱいの本であるが、その中に12ページ、菊地俊朗氏が書いた「身近な山を知る」という山の紹介記事が挿入されている。1山1ページであるが、有明山や高社山など、地元の人が毎日見上げてきた山が景色だけでなく、古くからの言い伝えや生活との関わりなど、いかに身近で親しまれた存在としてあったか紹介されている。

　ここに書かれていることを知って、その山を訪れたり眺めるのも

興味深い。

空気が澄んでいて、雲に隠れていないなど、気象の条件が良くないとこの本のようにはなかなか良い展望に出会えないが、展望に恵まれたら写真を撮ってきて、この本と見比べるのも楽しいだろうと思った。

（北島洋一）

旅客機から見る世界の名山

須藤　茂編著

2021年4月
イカロス出版
B5判　190ページ
1727円＋税

高度1万mの機窓から眺めた世界の名峰、著名な登山家が挑んだ高峰、活火山の山、美しい氷河など、定期便の機窓から写した世界の山々700座、252枚の写真が掲載されている。本書は2020年5月号の本欄で紹介した『旅客機から見る日本の名山』の世界版である。

各写真には日本版と同様、ピークのアルファベットが示す山名と標高、路線名、座席の左右の別、どの方向から撮影したかを示す16方位などのデータが掲載されている。本書には8000m峰は全14座、大陸最高峰は7中4座、各国最高峰は約200中20座、標高順位100峰中40座が掲載されている。

国内線ならともかく、海外ともとなるとひとりで網羅するのは難しいだろう。機会も限られるし、第一、コストが掛かる。「機窓から写真が撮れるかどうかは運次第＆金次第」と筆者が書くとおり、天気や飛行ルート、窓ガラスのきれいさなどの運のほか、エンジンより前の飛行機雲の影響を受けない、視界が開ける席は上級クラス。国際便ともなるとさぞかしお高いことだろう。

そこで世界版では9名の地質や防災の専門家による共著となった。いずれも編者のお仲間たちだろう。登山者とは違う、その専門性の視点から各山の成り立ち、地質なども分かりやすく解説されている。

木々に覆われた日本の山に比べ、世界では氷河や岩石に覆われた様々な色や地層模様の山に巡り合う。そもそもスケールが違う。筆者の数少ない経験でも、スイス上空でのアルプスの山々の山座同定

図書受入報告（2021年6月～7月）

著　者	書　名	頁／サイズ	発　行　者	発行年	寄贈／購入別
丹沢ネットワーク（編）	ウォーターウォーキング3 :誰でも楽しめる超カンタン沢歩き	168p／21cm	白山書房	2021	出版社寄贈
河野啓	デス・ゾーン :栗城史多のエベレスト劇場	343p／20cm	集英社	2020	出版社寄贈
牧野森太郎	自分自身を生きるには :森の聖人 ソローとミューアの言葉	192p／17cm	産業編集センター	2021	出版社寄贈
隅田正三	求道の師 能海寛（改訂版） :チベット巡礼探検家	201p／30cm	USS出版	2010	会員寄贈
滑志田隆	道祖神の口笛	281p／19cm	論創社	2021	著者寄贈
青柳健二	オオカミは大神（弐） :狼像をめぐる旅	160p／21cm	天夢人	2021	出版社寄贈
村田光昭（編）	塔克拉瑪干沙漠と西域南道トレッキング紀行文集	68p／26cm	防衛大学校山岳会	1997	発行者寄贈
深野稔生	燃えあがる雲 :大島亮吉物語	202p／20cm	白山書房	2021	出版社寄贈
竹中雅幸（編）	未踏峰 ジャルキャ・ヒマール（6,473m）登山報告書	55p／30cm	日本ジャルキャ・ヒマール登山隊2020	2021	発行者寄贈
高橋善護（編）	マナスル西壁　1971（8,156m）50th Anniversary	／15cm	日本マナスル西壁登攀隊	2021	発行者寄贈
小林尚礼	梅里雪山 :17人の友を探して（中国語版）	372p／21cm	北京聯合出版公司	2021	著者寄贈
Johnstone, Michael	Les Montagnes	93p／29cm	Albany Books	1979	大村春樹氏寄贈
Vaucher, Michel	Les Alpes Valaisannes	256p／29cm	Denoel	1979	大村春樹氏寄贈
Editions 24 Heures	La Suisse et Ses Glaciers :De L'epoque Glaciaire a Nos Jours	191p／30cm	Office National Suisse du Tourism	1980	大村春樹氏寄贈
Schaller, George B.	Into Wild Mongolia	210p／22cm	Yale University Press	2020	購入
DAV, AVO, AVS	Alpenvereinsjahrbuch Berg 2021（Band 145）	256p／27cm	DAV, AVO, AVS	2021	発行者寄贈
Hoyle, Tom（ed.）	New Zealand Alpine Journal Climbing in Aotearoa 2021	98p／28cm	New Zealand Alpine Club	2021	発行者寄贈

☆防衛大学校山岳会より「部報『踏跡』No.5、6、7、8、9、11、12、13（計8冊）」をご寄贈頂きました。
☆馬場岳彦様（東京）より「復刻・日本の山岳名著（全22巻）＋解題」「復刻・会報『山』1-100号」（日本山岳会創立70周年記念図書）をご寄贈頂きました。
☆田村義彦会員より「大台ケ原・大峰の自然を守る会『自然保護ニュース 1～65号（1969-2013年）』」をご寄贈頂きました。

はいささか忙しいが、成田からヨーロッパに向かうロシア上空ではタイガの大地が延々と続くが、日常では目にすることのできない大自然の風景を飽きることなく眺めることができた。

新型コロナの影響で、旅、なかでも海外に行く機会を失った今、こうして機窓から眺めた山の写真を楽しまれるのはいかがでしょうか。地上からの山体とはまた違った美しさを楽しめるはず。自由に海外に出かけることのできる、近い日に備えて。

では、よきフライトを！

（木根康行）

岐阜百秀山

清水克宏著

2021年5月
ナカニシヤ出版
A5判　278ページ
2200円＋税

私が岐阜の山に初めて触れたのは１９６６年、山岳部の合宿で奥美濃の冠山に南面のシタ谷からヤブこぎで登ったときだった。年老い、縁あって北濃に住まい、またヤブ山に登るようになった。

岐阜県に焦点を合わせた山の本は、酒井昭市著『ぎふ百山』（１９７５年）、『続ぎふ百山』（１９８０年）がある。また、酒井氏には「飛騨の山　美濃の山」（１９８８年）、「飛騨の山山（ヤブ山編）」（１９９０年）、『飛騨の山山（国境編）』（１９９２年）などがある。さらに高木泰夫著『奥美濃―ヤブ山登山のすすめ』（１９８７年）、大垣山岳協会編『美濃の山』3巻（１９９６年）などが我が書架に並んでいる。時を隔てて最近これらを参考に山を歩いてみると、登山道の相違、植生の変化、樹木の生長や伐採など、山が生きて変化していることが分かる。

そこに新たに『岐阜百秀山』（２０２１年）の刊行である。切り口を変えて著者独自選定の山々が描かれている。槍・穂高、御嶽、白山など県境の高峰も選ばれているが、従来の書籍とは味が違う。本書は、ほとんどの山を著者自ら２０１６年から20年までの5年間に集中的に踏査されているので、情報が新鮮である。踏査最後に残されたのが石徹白の小白山であった。20年3月、拙宅にて一献傾けながら山談義が盛り上がった。著者は翌早朝出発し、予定のルートで踏査を完結された。

本書にある山々の半数は私も登っている。自分の登山記録も含めて30～40年も昔の情報と比較しながら読んだ。改めて時代の変化を質した。たとえば、蕎麦粒山は高木泰夫氏の時代、山頂に突き上げるアカイシ谷（タカノス谷）を直登している。その後、『美濃の山』の記述では１９９４年ごろ、小蕎麦粒山の南西、１１８０ｍピークに南から突き上げる尾根に登山道が開かれている。本書の記述では２０１７年ごろ、大谷川とニシマタ谷の出合、林道終点から直接尾根に取り付いて山頂に至るルートが開かれている。私は五蛇池山の峠から小蕎麦粒山経由、ヤブこぎで登った。

野伏ヶ岳、猪臥山など積雪期のスキー登山に適したピークも選定されているが、著者は残念ながらスキーは使われていない。最新の登山ガイド本ではあるが、山の文化や歴史を知る手掛かりとしても参考になる。コラムは円空の山、愛すべき低山、奥美濃の難峰など幅広く楽しめる。

（井上達男）

会務報告

令和3年度第4回（7月度）理事会議事録

日時　令和3年7月14日㈬　19時00分～

場所　集会室およびオンライン（Ｚｏｏｍ）

【出席者】古野会長、坂井、山本・橋本各副会長、柏・南久松、萩原各常務理事、松原・松田・清水・飯田・平川・久保田・川瀬・長島各理事、黒川・佐野各監事

【オブザーバー】節田会報編集人

【審議事項】

1・令和3年度年次晩餐会について協議した（柏）。

2・令和3年度支部助成金等および新入会員報奨金の送金について承認した（南久松）。

【報告事項】

1・17件の寄附金の受け入れ報告があった。（南久松）

2・正会員5名、準会員5名の入会を承認した旨、報告があった。（古野）

3・「日本ジャルキャ・ヒマール登山隊2020」（海外登山助成金対象）の報告があった。（坂井）

4・海外登山助成金申請の動向について報告があった。（坂井）

5・120周年記念事業「ヒマラヤキャンププロジェクト」の経過報告があった。（柏）

6・静岡支部訪問の報告があった。（飯田）

7・総務委員会委員長交代の報告があった。（柏）

8・YOUTH CLUB委員会に関する会員からの問合せについて説明があった。（古野）

9・東京大学スキー山岳部100周年記念誌への引用の件について報告があった。（柏）

10・「山」7月号の発行について報告があった。（節田）

ルーム日誌 7月

2日　緑爽会
5日　資料映像委員会
6日　常務理事会
8日　アルピニズムクラブ
9日　図書委員会　スケッチクラブ
12日　財務委員会
14日　理事会
20日　会報編集委員会

7月来室者　32名

会員異動

物故

直井良徳（69381）21・2・9
和田安弘（14633）21・6・28

退会

岩井國臣（11628）
小平忠敏（15462）信濃
丹羽忠昭（15902）静岡
平尾勝美（16295）青森
川端涼太（16444）
菊井ひとみ（16518）岐阜
村田みゆき（A0349）

INFORM ATION インフォメーション

◆熊野古道・伊勢路の旅

山行委員会

三重県の三瀬谷から熊野まで、熊野古道・伊勢路を歩きます。途中、馬越峠、ツズラト峠ほか13の峠を越えます。三重県大紀町梅ケ谷から熊野市まで熊野古道・伊勢路を歩きます。三重県紀伊長島に前泊し、紀伊長島、尾鷲、熊野に泊まります。1日の行動時間は、7～9時間になります。

日程　10月13日㈬～17日㈰　4泊5日
集合　12日㈫　JR紀勢線・紀伊長島駅　15時30分
解散　17日　8時　熊野
行程　12日　紀伊長島の宿に前泊
13日　紀伊長島＝（バス）梅ケ谷―ツズラト峠―紀伊長島―三浦峠―三野瀬＝（バス）紀伊長島（泊）　19・5㎞　歩程7時間30分
14日　紀伊長島＝（バス）三野瀬―始神峠―馬越峠―尾鷲（泊）　20・5㎞　歩程7時間
15日　尾鷲―八鬼山―三木峠―賀田＝（熊野市電）熊野市（泊）　18・7㎞　歩程7時間
16日　熊野市＝（二木島電車）二木島―大阪坂―逢神坂峠―大吹峠―熊野（泊）　12㎞　歩程6時間50分

費用　5万5000円（6宿泊費、傷害保険料、雑費）
装備　舗装路も歩くのでハイキングシューズを使用、秋山装備に準じた軽装で。
定員　先着8名。
申込　9月15日までに住所、氏名、会員番号、生年月日、電話番号、緊急連絡先を明記して、征矢三樹（そやみき）まで。
＊申込み者には詳細案内を送付します。　✉sanko@jac.or.jp

FAX 03-6886-4392
TEL 080-3558-3250

◆秋の北八ヶ岳

山行委員会

秋の八ヶ岳を歩いてみませんか？　紅葉と温泉を楽しみながら八ヶ岳を横断します。

日時　10月3日㈰～5日㈫
集合　3日　JR茅野駅改札　9時10分
行程　3日㈰　茅野駅＝（タクシー）桜平駐車場―夏沢鉱泉―オーレン小屋（泊）　歩程約2時間　4日㈪　オーレン小屋―赤岩ノ頭―硫黄岳―夏沢峠―根石岳―天狗岳～本沢温泉（泊）　歩程約6時間　5日㈫　本沢温泉―しらびそ小屋―稲子湯（解散）　歩程約3時間30分
費用　3万円（山小屋代、タクシー代、保険料など）
装備　秋山登山装備一式、昼食2日分、行動食、シュラーフ（またはインナーシーツ）、マスク、着替え
定員　先着8名
申込み　9月18日㈮までに三井賢治へ　✉sanko@jac.or.jp

TEL 090-7402-6480

保険加入のため、性別、生年月日をお知らせください。また、参加者名簿作成のため、会員番号、住所、緊急連絡先、電話、携帯電話番号などもお知らせください。

◆白神山地ブナ再生事業と自然観察会

青森支部

世界遺産「白神山地」の自然に親しむこと、自然保護・環境保全の思想の普及啓蒙を図ることを目的として、左記のように「白神山地ブナ林再生事業と自然観察会」を開催する予定です。

日時　9月18日㈯～19日㈰
場所　白神山地内奥赤石　櫛石山登山口周辺
対象者　一般参加30人（先着順。未成年者は保護者の同意が必要）
内容　枯損木などの除伐、除去、下草刈り、植樹、自然観察会など
参加費　5000円（損害保険料含む）
内容詳細・申込み　〒036-8154　弘前市豊原2―13―14　公益社団法人日本山岳会青森支部ブナ林再生担当　福士和基
TEL 090-3095-6297
✉f.kazumoto@gmail.com

◆川井靖元写真展「アンデスの秀峰をめぐる旅」のお知らせ

アンデス山脈のアコンカグア、アルパマヨ、パイネなどの秀峰とその山麓を巡る旅を紹介します。

日時　9月10日㈮～16日㈭
場所　富士フォトギャラリー銀座
TEL 03-3538-9822
中央区銀座1―2―4
時間　平日は10時30分～19時　土・日は11～17時　最終日は14時まで

■訂正

先月号の8ページ、「さんけん通信」の記事で、執筆者が「千石敦司」さんとあるのは、「千田」さんの間違いでした。訂正させていただきますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

〈会報編集委員会〉

❖編集後記❖

●「五輪疎開」のため開会式の日に首都圏を脱出、みちのくの森吉山と姫神山に登ってきました。森吉山は穏やかな山で、高嶺の花を愛でながら登っているうちに、いつの間にか頂上に着いていました。仲間のひとりが、秘かに自家菜園のスイカを担ぎ上げており、思わぬ「山上の垂訓（すいくん）」ならぬ「山上の西瓜（すいか）」を味あわせてもらいました。●以前、阿仁打当（あにうっとう）生まれのマタギ、松橋富治の波乱の人生を描いた熊谷達也著『邂逅の森』を読んで感激、その舞台である秋田内陸縦貫鉄道も、かねて気になっていたローカル線です。森吉山から下山後、阿仁合駅で早速ビールを買い込み、車窓風景を肴に、気分は正に「六角精児の呑み鉄本線・日本旅」。味わい深い山旅でした。　**（節田重節）**

日本山岳会会報　山　915号

2021年（令和3年）8月20日発行
発行所　公益社団法人日本山岳会
〒102－0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL　東京（03）3261-4433
FAX　東京（03）3261-4441
発行者　日本山岳会会長　古野　淳
編集人　節田重節
E-メール：jac-kaiho@jac.or.jp
印　刷　株式会社　双陽社